

平成29年度第2回 会下山遺跡整備・活用検討委員会 会議録

日 時	平成30年3月7日（水） 15:00～17:00	
場 所	芦屋市役所北館4階教育委員会室	
出席者	委員長 安部 みき子 副委員長 藤川 祐作 委員 江守 易世 委員 仲谷 由利子 委員 花尾 廣隆 委員 星野 剛一 （欠席委員） 委員 船曳 純子 委員 野間 靖雅 （事務局） 社会教育部長 川原 智夏 生涯学習課長 茶嶋 奈美 生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋 生涯学習課文化財係学芸員 森山 由香里	
事務局	生涯学習課	
会議の公開	■ 公開	
傍聴者数	0 人	

1. 会議次第

(1) 開会

(2) 審議事項

- ①台風21号被害の復旧について
- ②会下山遺跡の活用について
- ③今後の会下山遺跡のあり方について
- ④その他

2. 提出資料

- ・資料1 ー 台風21号による会下山遺跡の被害復旧状況について
- ・資料2 ー 過去の委員会の議題一覧
- ・資料3 ー これまでの意見・対応のまとめ
- ・資料4-1 ー 三条文化財整理事務所案内板設置場所
- ・資料4-2 ー 三条文化財整理事務所案内板設置状況
- ・資料4-3 ー 三条文化財整理事務所 案内板設置前後の見学者数
- ・資料5 ー 学校園連携及び子ども対象事業の実施状況（参考）

3. 審議経過

【議題①】 台風21号による会下山遺跡の被害状況について

(安部委員長)

それでは、議題1について、ご説明をお願いしたいと思います。

(事務局：森山)

資料1に基づき説明

(藤川副委員長)

傾きの原因はわかりましたか。

(事務局：竹村)

恐らく柱の根腐れが原因と考えられます。

(安部委員長)

今後どうされますか。

(事務局：竹村)

会下山遺跡のモニュメント的存在なので、国及び県に指導を受けながら、復旧方法について慎重に検討していきたいです。

【議題②】会下山遺跡の活用について

(事務局：竹村)

これまでの委員会では、資料3のとおり、さまざまなご意見をうかがってきました。この委員会の開催は、今回が最終となりますので、地域・学校教育・体験学習・ボランティア・社会教育・ハイキング・観光それぞれの視点で、再度ご意見を確認をしたい。

(江守委員)

地域での活用について、三条コミスクでは、毎年1月1日に初日の出を見に会下山遺跡へ上がっていますが、「初日の出を見ること」だけで終わってしまっています。今後は、遺跡としての価値を知り、愛着を持った上で、「会下山遺跡で初日の出を見るということに意味がある」と、みんなが思えるようになっていくことが重要と感じます。

(事務局：竹村)

親和性という言葉がありますが、地域の子供にとって、初日の出や遊び場として、いい思い出の場所になっていけば、いずれ親しみをもっていただけるのだと思います。一方で、会下山遺跡は山の上にあるため、地域の祭りなどが実施しにくく、また、トイレもないので、立地条件上の問題が残ります。

(藤川副委員長)

学校教育での活用に関して、山手中学校の生徒は、普段会下山遺跡へ行くことはありませんか。

(花尾委員)

以前は昼休みなどに走って上がる生徒もいましたが、昼休みは短く、放課後には部活がありますので、行くことはほとんどありません。

(事務局：川原)

山手中学校の記念誌には会下山遺跡について掲載していただきました。

(事務局：竹村)

続いて、体験学習について、どんな内容が実施可能か、再度、委員のみなさんのアイデアを伺いたい。

(仲谷委員)

体験学習については、全国各地の資料館や博物館などがさまざまなワークショップを実施しています。やりようによっては、さまざまなことができるのではないかと思います。

(星野委員)

いつごろ誰を対象に何をするのか、基本的なプランニングがないと、具体的な話が進まなと思います。この委員会は今回は最終回であり、今になって「どんなことができるのか」という話をして、具体的にいつ、どのように実施するのですか。現状でのプランはありませんか？

(事務局：竹村)

まだありません。

(星野委員)

では、ここで出た体験学習のアイデア等は、言いつばなしの聞きつばなしになるのですか。資料3のように、これまで、体験学習についてもいろいろな意見がでていますが、未処理のままのものが多いです。全てを実施することは難しいと思いますが、意見を選別して、具体的にどれをいつ実施するのかを示してもらえないと、もったいないと感じます。ベースとなる計画を作らない限り、何も変わらないと思います。

(事務局：竹村)

現状ではまだ具体的な事業展開を計画するに至れていない部分は、ご指摘のとおりです。しかし、平成30年度より、こどもを対象とした文化財の活用事業を「芦屋こども考古学者事業」として、計画的に展開していく予定です。

(仲谷委員)

文化財に関心を持っているのは、高齢者世代がほとんどです。次の世代にバトンタッチができないと、文化財への関心や文化財を守る思いなどが、世の中から失われてしまうのではないかと感じます。そんな中で、芦屋市は、10年後・20年後の会下山遺跡の姿やコンセプトを具体的に思い描きながら保護をしているのか、不安に感じるところです。

(星野委員)

ボランティア活動に関して、事業計画のプランニングに対して、どんな手伝いができるかを考えることができると、活動もしやすいが、現状では事業計画がありません。三条文化財整理事務所の展示室を公開するだけでも、ひとつの事業になりますので、ここを拠点として考えてみてはどうでしょうか。

(事務局：茶嶋)

年間計画を作成・提示して、ボランティア活動についても、具体的に提示していきたいと思います。

【議題②】今後の会下山遺跡のあり方について

(事務局：竹村)

この委員会は、今回で最終回となりますので、各委員の会下山遺跡への思いをお話しいただきたいと思います。

(藤川副委員長)

何よりも、登山道の整備に早急に取り組んでほしいです。遺跡に来てもらうにも、まずは整備をしなければ話にならないと思います。

(花尾委員)

会下山遺跡で今後、発掘調査などの機会があれば、山手中学校の生徒たちの関心も生まれるかもしれません。

(仲谷委員)

この委員会では、もっとハード面の整備が実現可能なのだと思っていましたが、難しいことがわかりました。これまでの意見の中で、実現可能なことから実現していったほしい。

(江守委員)

今後も周辺住民として、会下山遺跡の案内に努めたいです。

(星野委員)

この委員会に携わることで、芦屋市全体の総合計画等の中で文化財がどのような位置づけであるのか知ることが出来、よかったと感じます。三条文化財整理事務所の展示室公開など、できることから頑張っていただけだと思います。

(安部委員長)

史跡整備についてはこれからだと思いますが、遺跡の内容がわかりやすい整備をしてほしいと思います。

(事務局：竹村)

会下山遺跡は、これまでは専門家や古代史ファンのみが知る遺跡でしたが、これからは芦屋市の魅力発信や地域資源として、会下山遺跡が重要になっていくと思います。未解決の課題が多くありますが、この委員会でいただいた意見は、今後の史跡整備や活用に活かしていきたいと思います。

<閉会>